

年の瀬に 2015

1か月近くが過ぎたが、会う方々から「50周年記念式典良かったね」、「いい会にお招きいただきありがとう」などと今も言われている。式典全体に及ぶ話が多いのだが、「生徒が案内してくれて嬉しかった」、「生徒会長の話は内容が良かったし、堂々と話す姿も素晴らしかった」、「波木井さん、菊地さんと弦楽部の演奏によるアイネ・クライネ・ナハトムジークが心に残った」、「式に臨む態度、話を聴く姿勢がとても良いことに驚いた」と生徒のことに及ぶこともある。私も記念式典当日における皆さんの態度、振る舞いは素晴らしいものだったと思っているものだから、なんの臆面もなく「うちの生徒、素晴らしいでしょ！」と返している。

12日にミニ学校説明会を開いた。今回も多くの生徒、保護者の方の出席があり、中には数回目という生徒、保護者の方もおられた。保護者の方数人から、「生徒さんが落ち葉掃きをしてみましたね」、「今日も生徒さんが笑顔で挨拶してくれて嬉しかったです」、「うちの子も光陵に入ってステキな高校生になってほしいです」というようなお話を伺うことができた。勿論、初めて来校された方からの「あの坂を登る以外に道はないの?」、「50周年と聞きましたが、校舎も50年ですか?」などという質問もあるのだが、流石に如何ともしがたく、「権太坂は、ご存じのとおり箱根駅伝で中継される有名な坂です」とか、「校舎の風格は申し分ないでしょう」と訳のわからぬ回答をするばかりであった。

兎にも角にも、生徒の皆さんは、中学生や保護者の憧れの対象のようである。

で、50周年記念式典である。引き締まった態度で参加することにより、皆さんは聴視者ではなく、式典をつくりあげる一員となり、来賓や卒業生の方々を招く存在たり得た。となれば、これからの光陵を紡いでいく主体として申し分のない皆さん、と位置づけさせていただこう。

さて、新たな一步。君はどのようにその一步を印すのか。

この時期、どうしても卒業そして受験を間近に控えた3年生への思いが強くなる。今年1月に発行した『校長室から7』に置いた「You can do it.」は、大学入試センター試験の前日に当時の3年生に送ったものであった。今にして、前日に読む余裕などなかっただろうなど省みてもいるが、この冬もまた3年生に心よりのエールを送ることに迷いはない。

その『校長室から7』には「70年」というテーマも置いた。そこでは、第一に、戦後70年の間、直接的な対外戦争を行うことなく平和を高めてきたこと及びその基盤が憲法であること、第二に、戦後の成果の一つである近隣諸国との友好関係が近頃ぎくしゃくしていること、第三に、冷戦後の新たな対立構造の中で、武力に頼ることのない平和への貢献が日本の役割ではないかという三点をあげた。むろん軽々な総括のなし得る問題ではないし、一年という限定された時間で解決される問題でもない。加えて生徒の多くにとっては、自分の問題としての切迫さはそう高くないことであろう。それでも、日本だけでなく国際社会が直面する現在という立ち位置が、近現代の歴史における大きな岐路であるのかもしれないと思う気持ちから、提起をおこなった。

歴史家の網野善彦さんは、「人類の青年時代はもはや確実に終わりを告げたといわなくてはなりません。これは否応のないことで、人類は自分のおかれている立場を十分に思慮深く考えながら、自らを滅亡しうる大きな力を制御しつつ進まない、うっかりすると急速な頓死を迎えてしまう危険を絶えず孕んでいる状況の中におかれている。いわばそうした壮年時代に入ったことを自覚しつつ、現代社会の現実を認識し把握することが必要だと思うのです。」（『歴史としての戦後歴史学』日本エディタースクール出版部2000.3）と警鐘を発する。本質を射た提言である。私はと言えば、高校に籍を置く者として、教育の意義や責任がより大きくなっていく筈だと認識する。50周年式典において、偏見や傲慢さに陥ることなく、他者の思いや痛みを受け止めることのできる人となるため勉強するのだと皆さんにメッセージを送った。年の瀬にあたり、あらためて、高い目標を持ち、心やさしき社会のリーダーをめざしてほしいと伝えることとする。

Wishing You A Merry Christmas and A Happy New Year !!